

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

資料 2 - 2

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標1 公共交通利用頻度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「う・ら・ら」 0.5日／月（令和3年度）→ 0.6日／月（令和8年度） ・「う・ら・ら」以外の路線バス 0.2日／月（令和3年度）→ 0.3日／月（令和8年度） ・JR武豊線 2.0日／月（令和3年度）→ 2.1日／月（令和8年度） ・名鉄河和線 0.7日／月（令和3年度）→ 0.8日／月（令和8年度） ・タクシー 0.1日／月（令和3年度）→ 0.2日／月（令和8年度） 	-	-	-	-	<p>アンケート調査を行い、計画最終年度（令和8年度）に評価する。</p>

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標 2 (1/4) 公共交通利用者数・利用台数の増加 ・「う・ら・ら」 179,539人/年（令和2年度）→ 260,000人/年（令和8年度）</p>	<p>・事業1-3 知多バス「東ヶ丘団地線」の利便性向上 ・事業1-4 知多バス「刈谷中部空港線」の活用 ・事業4-2 回数券の共通利用 ・事業5-1 公共交通パンフレットの作成</p>	<p>令和4年4月から令和5年3月までの実績値</p>	<p>・「う・ら・ら」 247,412人/年（令和4年度） ・平成30年度比 11,469人減 5%減 ・令和元年度比 7,157人増 2%増 ・令和2年度比 67,873人増 37%増 ・令和3年度比 25,140人増 11%増</p> <p>・R8年度の目標値260,000人は地域公共交通計画で規定。コロナ禍以前であるH30年度の利用者数258,881人を丸めた数値とした。 ・R4年度とH30年度の比較から、R4年度は11,469人減（5%減）となっている。 ・R4年度がH30年度（目標値）の利用者数に及ばなかった主要因は、R1.10月のダイヤ改正による利用離れとコロナ禍による生活様式の変化だと考えられる。 ・R3.2月に行ったダイヤ改正やワクチン接種等による外出意識の変容からか、R3.2月以降は利用者数は回復傾向にある。 ・R5.2月及びR5.3月はコロナ禍以前のH30年度の利用者数を上回った。</p>	<p>・計画に記載された施策を着実に実施する。</p> <p>・公共交通の利用方法の周知や利用促進を目的とした「事業5-1 公共交通パンフレットの作成」については、令和4年度末に発行した。パンフレットでは「う・ら・ら」のほか、近隣の行政バス、民間バス・タクシーの乗り方を紹介したほか、おでかけスポットなども掲載した。パンフレットに掲載するおでかけスポットについては、事前に「のりつぎ旅」を企画し、町広報紙でおでかけプランを提案するほか、参加者の意見等を聞き取った。このような、公共交通に関心を持っていただくきっかけづくり、周知を継続して実施していきたい。なお、のりつぎ旅で案内したおでかけスポットは、隣接する大府市のおおぶ文化交流の杜と、刈谷市の刈谷市美術館である。</p> <p>・令和4年10月から、民間バス・タクシーの利用促進を目的に「事業4-2 回数券の共通利用」を開始した。回数券の利用枚数は、令和5年3月末現在で、知多バス「東ヶ丘団地線」で68枚、タクシー事業者で312枚と利用はまだ少ない。引き続き周知活動を実施し、民間バス・タクシーの利用促進に努める。</p>	<p>各年度の実績値により評価する。</p>

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標 2 (2/4) 公共交通利用者数・利用台数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 知多バス「東ヶ丘団地線」 31,722人/年（令和2年度）→ 45,000人/年（令和8年度） 知多バス「大府線」 102,487人/年（令和2年度）→ 185,000人/年（令和8年度） 		<p>事業者から情報提供（年度単位の利用者数）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知多バス「東ヶ丘団地線」 31,783人/年（令和4年度） <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度比 15,415人減 33%減 令和元年度比 13,281人減 30%減 令和2年度比 61人増 0.1%増 令和3年度比 3,201人増 11%増 知多バス「大府線」 154,093人/年（令和4年度） <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度比 50,551人減 25%減 令和元年度比 31,735人減 18%減 令和2年度比 51,606人増 50%増 令和3年度比 30,332人増 24%増 <p>・R8年度の目標値は地域公共交通計画で規定。運行事業者と調整のうえ、R1年度の利用者数を丸めた数値とした。</p> <p>・R4年度とR1年度の比較から、R4年度の「東ヶ丘団地線」は13,281人減（30%減）、「大府線」は31,735人減（18%減）となっている。</p> <p>・R4年度がR1年度（目標値）の利用者数に及ばなかった主要因は、コロナ禍による生活様式の変化や、集合団地の高齢化による通勤・通学利用者の減少だと考えられる。</p>		

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料 2 - 2

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
目標 2 (3/4) 公共交通利用者数・利用台数の増加 ・知多バス「刈谷中部空港線」 1,545人/年（令和2年度）→ 98,000人/年（令和8年度）		事業者から情報提供（年度単位の利用者数）	・知多バス「刈谷中部空港線」 10,362人/年（令和4年度） ・平成30年度比 89,348人減 90%減 ・令和元年度比 88,021人減 90%減 ・令和2年度比 8,587人増 483%増 ・令和3年度比 7,963人増 331%増 ・R8年度の目標値98,000人は地域公共交通計画で規定。運行事業者と調整のうえ、R1年度の利用者数を丸めた数値。 ・R4年度とR1年度の比較から、R4年度は88,021人減（90%減）となっている。 ・R4年度がR1年度（目標値）の利用者数に及ばなかった主要因は、 コロナ禍の影響を受け、運行便数を減便 （R1年度：1日当たり上り13便・下り14便、R4年度：1日当たり上り・下り4便）したことだと考えられる。		
目標 2 (4/4) 公共交通利用者数・利用台数の増加 ・タクシー 11,122台/年（令和2年度）→ 22,000台/年（令和8年度）		事業者から情報提供（月単位の利用者数）	・タクシー 16,510台/年（令和4年度） ・平成30年度比 3,423台減 18%減 ・令和元年度比 417台減 3%減 ・令和2年度比 5,388台増 48%増 ・令和3年度比 1,639台増 11%増 ・R8年度の目標値22,000台は地域公共交通計画で規定。運行事業者と調整のうえ、コロナ禍以前のH30年度以上の数値とした。 ・R4年度とH30年度の比較から、R4年度は3,423台減（18%減）となっている。 ・R4年度が目標値の利用者台数に及ばなかった主要因は、 コロナ禍以前から続いている乗務員不足による稼働率の低下や、コロナ禍以降から続く出張・深夜営業時間の需要の低下 だと考えられる。		

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考												
<p>目標 3 (1/2) 「う・ら・ら」各路線・系統の利用者数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環状線（左回り） 62,033人／年（令和2年度）→ 80,000人／年（令和8年度） ・環状線（右回り） 46,638人／年（令和2年度）→ 72,000人／年（令和8年度） ・長寿線 33,845人／年（令和2年度）→ 48,000人／年（令和8年度） ・刈谷線 22,124人／年（令和2年度）→ 29,000人／年（令和8年度） ・東浦高校線（於大公園南経由） 11,928人／年（令和2年度）→ 22,000人／年（令和8年度） ・東浦高校線（文化センター経由） 8,536人／年（令和2年度）→ 11,000人／年（令和8年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業1-1 「う・ら・ら」、路線バスの経路及びダイヤの見直し ・事業5-1 公共交通パンフレットの作成 ・事業5-2 「う・ら・ら」の路線図・時刻表の発行 	<p>令和4年4月から令和5年3月までの実績値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環状線（左回り） 76,119人／年（令和4年度） ・令和元年度比 1,229人増 3%増 ・令和2年度比 14,086人増 22%増 ・令和3年度比 5,661人増 8%増 ・環状線（右回り） 63,944人／年（令和4年度） ・令和元年度比 3,375人増 11%増 ・令和2年度比 17,306人増 37%増 ・令和3年度比 2,863人増 4%増 ・長寿線 49,123人／年（令和4年度） ・令和元年度比 6,468人増 15%増 ・令和2年度比 15,278人増 45%増 ・令和3年度比 6,778人増 16%増 ・刈谷線 29,405人／年（令和4年度） ・令和元年度比 4,467人増 17%増 ・令和2年度比 7,281人増 32%増 ・令和3年度比 3,891人増 15%増 ・東浦高校線（於大公園南経由） 22,531人／年（令和4年度） ・令和元年度比 4,651人増 69%増 ・令和2年度比 10,603人増 88%増 ・令和3年度比 4,185人増 22%増 ・東浦高校線（文化センター経由） 11,519人／年（令和4年度） ・令和元年度比 35人増 0.6%増 ・令和2年度比 2,983人増 34%増 ・令和3年度比 2,048人増 21%増 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に記載された施策を着実に実施する。 ・「事業5-1 公共交通パンフレットの作成」については、目標2と同様。 ・「事業5-2 「う・ら・ら」の路線図・時刻表の発行」については、住民の方から「時刻表が複雑である」といった意見を多く頂くため、地域のバス停とスーパーや病院などの主要施設のバス停の発着時刻をまとめた地域版の時刻表を令和4年10月に発行した。地域のサロンや産業まつりで開催した乗り方教室の際に、お試し乗車券（有効期限：1か月、利用回数：6回分）とともに配付した。 ・お試し乗車券は、おおぶ文化交流の杜や刈谷市美術館を目的地とした「のりつき旅」でも配付したが、藤江地区のサロンで開催した乗り方教室で配付したお試し乗車券の利用率が42%と最も高かったため、実際に路線図・時刻表の読み方や乗り方をお伝えするとともに、地域版の時刻表を配付することで、次の利用に繋がりがやすいことが分かった。来年度以降も地域版の時刻表の発行・配付だけにとどまらず、次の利用に繋がる周知・利用促進活動に努めた。 なお、地域版の時刻表は、役場やコミュニティセンターでも配布している。 <p>(参考) お試し乗車券の利用者数／利用者割合</p> <table border="1"> <tr> <td>①のりつき旅第1弾（大府市）</td> <td>1人</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>②のりつき旅第2弾（刈谷市）</td> <td>4人</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>③乗り方教室（藤江サロン）</td> <td>8人</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>④乗り方教室（産業まつり）</td> <td>65人</td> <td>25%</td> </tr> </table>	①のりつき旅第1弾（大府市）	1人	11%	②のりつき旅第2弾（刈谷市）	4人	29%	③乗り方教室（藤江サロン）	8人	42%	④乗り方教室（産業まつり）	65人	25%	<p>各年度の実績値により評価する。なお、令和元年10月から運行を開始した「環状線（左回り）」及び「環状線（右回り）」、「東浦高校線（於大公園南経由）」、「東浦高校線（文化センター経由）」、「長寿医療研究センター直行便」については、令和元年度比の期間を10月～3月の6か月間とする。</p>
①のりつき旅第1弾（大府市）	1人	11%															
②のりつき旅第2弾（刈谷市）	4人	29%															
③乗り方教室（藤江サロン）	8人	42%															
④乗り方教室（産業まつり）	65人	25%															

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料 2 - 2

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標 3 (2/2) 「う・ら・ら」各路線・系統の利用者数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長寿医療センター直行便 528人/年（令和2年度）→ 1,200人/年（令和8年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業1-1 「う・ら・ら」、路線バスの経路及びダイヤの見直し ・事業5-1 公共交通パンフレットの作成 ・事業5-2 「う・ら・ら」の路線図・時刻表の発行 	<p>令和4年4月から令和5年3月までの実績値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿医療センター直行便 828人/年（令和4年度） <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度比 82人増 22%増 ・令和2年度比 300人増 56%増 ・令和3年度比 278人増 50%増 ・長寿線と刈谷線、東浦高校線（於大公園南経由）、東浦高校線（文化センター経由）はR4年度時点で目標を達成した。 ・環状線（左回り）と環状線（右回り）について、R4年度の利用者数が目標に及んでいない。この要因は、R1.10月のダイヤ改正による既存ユーザー（旧東ヶ丘線及び旧平池台線）の利用離れとコロナ禍による生活様式の変化、通学利用していた緒川小学校及び藤江小学校の児童数の低下だと考えられる。 ・長寿医療センター直行便について、R4年度の利用者数が目標に及ばなかった要因は、本便の利用用途が早朝の通院に限られているうえ、目的地が病院という特性上、密を避ける意識が働きやすく、病院への移動手段がバスから自家用車に移行したことだと考えられる。 		
<p>目標 4 駅勢圏半径800m、バス停勢圏半径300mにおける人口カバー率の向上 95.1%（令和3年度）→ 上昇（令和8年度）</p>	-	-	-	-	<p>計画最終年度（令和8年度）に評価する。</p>

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標5(1/3) 各地区（小学校区の代表バス停）から主要地点・施設への「行きやすさ」の向上 小学校区の代表バス停ごとに以下を設定。詳細は参考資料を参照。 ・始発便 主要施設到着時刻 ・最終便 主要施設発車時刻 ・最大滞在可能時間 ・運行頻度（往路） ・運行頻度（復路）</p> <p>※実績値には数値に変化のあった指標のみ掲載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業1-1 「う・ら・ら」、路線バスの経路及びダイヤの見直し ・事業1-4 知多バス「刈谷中部空港線」の活用 ・事業2-1 タクシーを活用した新たな公共交通の導入 ・事業2-2 地域内の短距離移動を保管する新たな公共交通の導入 ・事業2-3 企業送迎バス等の公共交通化・共同運行の働きかけ 	<p>令和5年3月末の運行ダイヤにて計測</p>	<p>コロナ禍の影響を受けて、大きく変化した利用ニーズに順応するため、知多バス「東ヶ丘団地線」がR4.10月1日、知多バス「大府線」がR5.3月1日、JR東海及び名古屋鉄道がR5.3月18日にダイヤ改正を行った。このことに伴って、全小学区の代表バス停の指標が変化した。</p> <p>（詳細は参考資料を参照）</p> <p>(1) 森岡自然公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○始発便 主要施設到着時刻 <ul style="list-style-type: none"> ・大府駅（休日） 75分遅くなる ・金山駅（平日） 4分早くなる ・金山駅（休日） 71分遅くなる ○最終便 主要施設発車時刻 <ul style="list-style-type: none"> ・大府駅（平日） 15分遅くなる ・大府駅（休日） 15分遅くなる ・金山駅（平日） 18分遅くなる ・金山駅（休日） 20分遅くなる ○最大滞在可能時間 <ul style="list-style-type: none"> ・大府駅（平日） 15分長くなる ・大府駅（休日） 60分短くなる ・金山駅（平日） 22分長くなる ・金山駅（休日） 51分短くなる ○運行頻度（往路） <ul style="list-style-type: none"> ・大府駅（平日） 3便減 ・大府駅（休日） 8便減 ・金山駅（平日） 2便減 ・金山駅（休日） 7便減 ○運行頻度（復路） <ul style="list-style-type: none"> ・大府駅（平日） 2便減 ・大府駅（休日） 7便減 ・金山駅（平日） 3便減 ・金山駅（休日） 6便減 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に記載された施策を着実に実施する。 ・知多バス「大府線」及び「東ヶ丘団地線」は、地区と鉄道駅を結ぶ重要な生活路線であるため、継続的な運行が可能となるような利用促進策・支援策の検討が必要。 ・現段階で乗継可能な発着時刻の周知や、おでかけプランの提案などを事業者と共同で行っていく必要がある。 	<p>各年度の実績値により評価する。なお、知多バス「大府線」が令和4年10月1日、知多バス「東ヶ丘団地線」が令和5年3月1日、JR東海及び名鉄が令和5年3月18日に実施したダイヤ改正によって、策定時の数値から一部変化があった。</p>

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標5(2/3) 各地区（小学校区の代表バス停）から 主要地点・施設への「行きやすさ」の 向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業1-1 「う・ら・ら」、路線バスの経路及びダイヤの見直し ・事業1-4 知多バス「刈谷中部空港線」の活用 ・事業2-1 タクシーを活用した新たな公共交通の導入 ・事業2-2 地域内の短距離移動を保管する新たな公共交通の導入 ・事業2-3 企業送迎バス等の公共交通化・共同運行の働きかけ 		<p>(2) 相生の丘 ○始発便 主要施設到着時刻 ・巽ヶ丘駅（平日） 16分遅くなる ・金山駅（平日） 1分早くなる ○最終便 主要施設発車時刻 ・巽ヶ丘駅（平日） 16分早くなる ○最大滞在可能時間 ・巽ヶ丘駅（平日） 32分短くなる ・金山駅（平日） 1分長くなる ○運行頻度（往路） ・巽ヶ丘駅（平日） 1便減 ○運行頻度（復路） ・金山駅（休日） 1便減</p> <p>(3) 新田分団詰所 ○始発便 主要施設到着時刻 ・巽ヶ丘駅（平日） 16分遅くなる ○最終便 主要施設発車時刻 ・巽ヶ丘駅（平日） 16分早くなる ○最大滞在可能時間 ・巽ヶ丘駅（平日） 32分短くなる ○運行頻度（往路） ・巽ヶ丘駅（平日） 1便減 ○運行頻度（復路） ・巽ヶ丘駅（休日） 1便減 ・金山駅（休日） 1便減</p>		

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料 2 - 2

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
目標 5 (3/3) 各地区（小学校区の代表バス停）から 主要地点・施設への「行きやすさ」の 向上			(4) 石浜南 (4) 石浜南 ○運行頻度（往路） ・金山駅（休日） 1便減 (5) アイプラザ ○運行頻度（往路） ・金山駅（休日） 1便減 (6) 生路 ○運行頻度（往路） ・金山駅（休日） 1便減 (7) 平池台 ○運行頻度（復路） ・巽ヶ丘駅（平日） 1便増		
目標 6 高齢者（65歳以上）の外出頻度の向上 4.7日/週（令和3年度）→ 5.6日/週（令和8年度）	—	—	—	—	アンケート調査を行い、計画最終年度（令和8年度）に評価する。
目標 7 年代別外出頻度の向上 ・学生～60代前半 5.9日/週（令和3年度）→ 5.9日/週（令和8年度） ・60代後半～70代 5.1日/週（令和3年度）→ 5.9日/週（令和8年度） ・80歳以上 3.8日/週（令和3年度）→ 4.9日/週（令和8年度）	—	—	—	—	アンケート調査を行い、計画最終年度（令和8年度）に評価する。
目標 8 他人と会話や交流ができる”おでかけ先”に「う・ら・ら」利用で行く人の割合の向上 12%（令和3年度）→ 20%（令和8年度）	—	—	—	—	アンケート調査を行い、計画最終年度（令和8年度）に評価する。

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標 9 (1/2) 高齢者（65歳以上）の運転免許自主返納件数の増加 141.8件（平成28年度～令和2年度の平均）→ 200件（令和4年度～令和8年度の平均）</p>	<p>・ 事業6-1 地域に向いた乗り方勉強会の開催 ・ 事業6-4 高齢者運転免許自主返納支援事業の強化</p>	<p>半田警察署の有する返納件数に関するデータより計測</p>	<p>・ 高齢者（65歳以上）の運転免許自主返納件数 103件（令和4年度） ・平成28年度比 21件減 17%減 ・平成29年度比 33件減 25%減 ・平成30年度比 27件減 21%減 ・令和元年度比 80件減 44%減 ・令和2年度比 33件減 25%減 ・令和3年度比 19件減 16%減</p> <p>・ R4年度は目標を達成できておらず、件数も年々減少している。 ・ R4年度の自主返納件数が目標に及ばなかった主要因は、地域公共交通の周知が行き渡っておらず、住民が抱える不安（返納した後の生活をイメージできない等）の解消が十分にできていないことが考えられる。</p>	<p>・ 計画に記載された施策を着実に実施する。</p> <p>・ 「事業6-1 地域に向いた乗り方勉強会の開催」については、高齢者が参加するサロンや地域のイベントに赴き、ブースを設ける等して以下のとおり開催した。 目標3の評価に記載したお試し乗車券の実績からも、本事業の開催によってバスを利用するきっかけづくりができていると考えられる。自家用車から公共交通への移行を支援するとともに、運行経路や利用方法などに関する不安払しょくに貢献できるよう、引き続き本事業を行う必要がある。</p> <p>・ 乗り方教室（藤江サロン） 開催日 令和4年10月5日 参加者数 19名 ・ 乗り方教室（産業まつり） 開催日 令和4年11月12日 参加者数 300名程度</p>	<p>各年度の実績値により評価する。</p>

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料 2 - 2

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>目標 9 (2/2) 高齢者（65歳以上）の運転免許自主返納件数の増加</p>	<p>・事業6-1 地域に向いた乗り方勉強会の開催 ・事業6-4 高齢者運転免許自主返納支援事業の強化</p>		<p>【補足】 ・高齢者運転免許自主返納支援事業の支援件数 173件（令和4年度） ・平成28年度比 30件増 21%増 ・平成29年度比 18件増 12%増 ・平成30年度比 34件増 24%増 ・令和元年度比 31件減 15%減 ・令和2年度比 2件増 1%減 ・令和3年度比 47件増 37%増</p> <p>・R4年度について、高齢者運転免許自主返納支援事業の1月あたりの支援件数が最も多くなったのが、3月で23件であった。この月に支援件数が増えた要因は、同月に警察庁が公開した報告書「令和4年における交通事故の発生状況などについて（高齢ドライバーによる交通死亡事故件数の増加等が記載されている）」が各メディアで報道されたことだと考えられる。</p> <p>・返納支援事業の窓口（住民自治課）には、返納したいが半田警察署に行く手段がないという声も届いており、返納件数が目標に達しない要因の一つには、返納窓口までの距離が遠いこと、返納窓口までの足がないことから自主返納を取りやめる方が一定数いること等も考えられる。</p>	<p>・「事業6-4 高齢者運転免許自主返納支援事業の強化」については、R4年度の支援件数は実績値の補足のとおりである。H31年4月19日に東池袋で起きた交通事故等、高齢者による交通事故が大きく報道された年度は支援件数が増加する傾向にある。</p> <p>また、R4年度は8月の広報紙にて支援事業の案内をしたところ、1月当たり支援件数は21件と多くの方に利用いただいた。引き続き、周知活動を行う必要がある。</p>	

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

資料 2 - 2

東浦町地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
目標10 最寄りバス停の認知度の向上 92.5%（令和3年度）→ 100%（令和8年度）	—	—	—	—	アンケート調査を行い、計画最終年度（令和8年度）に評価する。
目標11 「う・ら・ら」収支率の向上 9.5%（令和2年度）→ 13.0%（令和8年度）	・事業1-1 「う・ら・ら」、路線バスの経路及びダイヤの見直し ・事業7-4 公共交通利用状況の情報公開	令和4年4月から令和5年3月までの実績値	・「う・ら・ら」収支率 12.0%（令和4年度） ・平成30年度 25.4% ・令和元年度 18.2% ・令和2年度 9.6% ・令和3年度 10.4% ・R4年度は 目標を達成できていないが、コロナ禍以降で最も高い数値 となった。 ・R4年度の収支率が目標に及ばなかった要因は、 利用者数の増加が足りない ことである。なお、令和4年度の利用者数と運賃収入の比率で試算すると、年間で約26万人の利用が必要になる。 ・収支率が平成30年度と比較して大きく減少しているのは、 運行台数を増加したことによって運行委託費が増額したこと、コロナ禍等で利用者数が減少したことが要因 である。	・計画に記載された施策を着実に実施する。 ・「事業6-1 地域に向いた乗り方勉強会の開催」については、令和6年10月にダイヤ改正を予定している。増加している運行委託費の中で、最大効率で運行できるダイヤの作成・協議を進める必要がある。	各年度の実績値により評価する。

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。